

経営比較分析表（令和5年度決算）

岡山県 西栗倉村

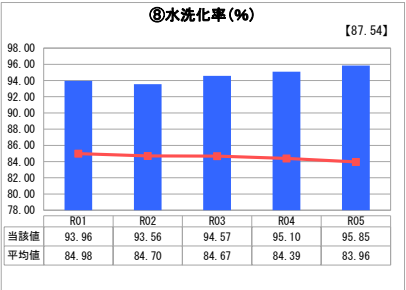
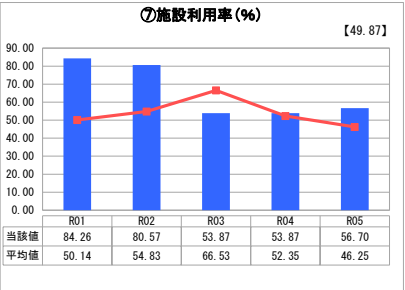
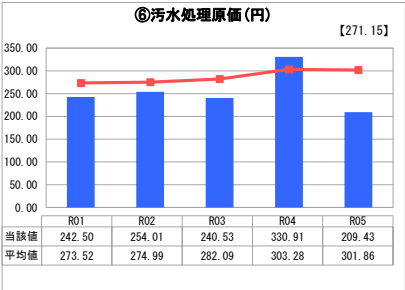
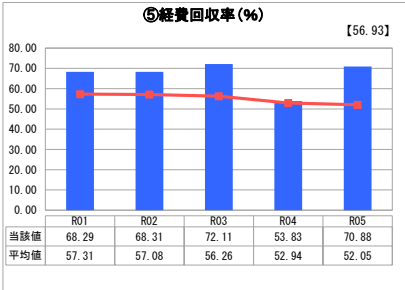
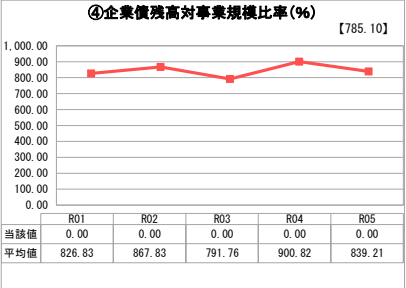
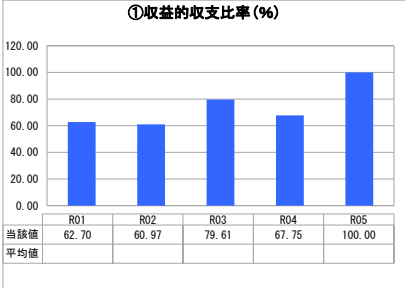
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	99.47	100.00	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,340	57.97	23.12
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,326	0.61	2,173.77

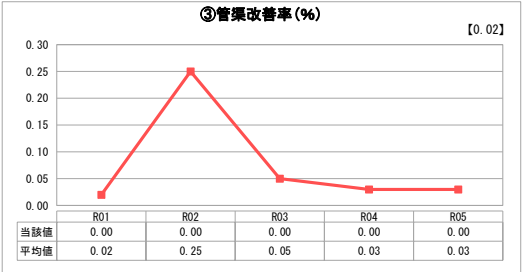
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性について、①収益の収支比率から公営企業会計へ移行に伴い打切り決算したことによって黒字のように見られるが実際は赤字経営となっており、経営の改善が急務と考える。地方債残高の規模について、④企業債残高対事業規模比率は0となっているが、今後の更新事業や広域化事業により一時的に増加傾向になると予想される。料金水準について、⑤経費回収率について類似団体と比較した場合、平均を上回っており、引き続き適切な料金収入の確保を行う必要がある。また、会計の安定に向けて料金改定等が必要と考える。費用の効果性について、⑥汚水処理原価から昨年度と比較し121円程減少しているが打切り決算によるためであって実質昨年度と同様の数値である。施設利用率が増減していないことから物価高や電気代の高騰が要因と考える。施設の効果性について、⑦施設利用率が昨年とほぼ同様となっているが人口は減少傾向にあるが管の老朽化により不明水が増加し利用率が微増したと考える。⑧の水洗化率については、類似団体より高い状況にある。非水洗の家庭については、高齢世帯など投資が難しい状況であるが、引き続き水洗化に向け勧奨を行っていく。

以上より、現状においては物価高の影響や起債償還金を一般会計繰入金により賄っており、汚水処理原価が高く施設利用率が低いことから効率性は低下傾向にある。統廃合による広域化や適正な料金設定等収支での経営改善が必要である。

2. 老朽化の状況について

平成6年に供用開始しており、供用開始から27年程度が経過しているため、平成22年度から順次機器等の更新を計画、実施している。管渠の更新は未実施であるため、早期に計画を立て更新を実施していく必要がある。

全体総括

施設の更新は随時行ってきたが、管渠の更新実績がなく、老朽化対策が不十分である。施設改修を行いながらも経費回収率を類似団体平均値以上に保ってきたのは、一般会計からの基準外繰入に頼ったものであり、正常な経営状況であるとは言えない。統廃合による広域化や施設のダウンサイジング及び料金の見直しを含めた収支面での経営計画を行う必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。